未来は歴史の上に輝く。

～写真で振り返る秋田市の二十世紀～

明治、大正、昭和、平成と、四つの時代にまたがる二十世紀もまもなく終わります。

今世紀は人類史上希（まれ）にみる激動の百年でした。戦争と平和、そして技術革新や社会資本の整備によって、人々の暮らしは劇的に変わりました。

明治二十二年に誕生した秋田市も、今年で百十一歳。二十世紀と共に歩んだ秋田市の、この百年を写真とともに振り返ってみます。みなさんの心に残る場面はあるでしょうか。

明治38年９月、奥羽本線が全線開通。数万人の見物客でにぎわった秋田駅前の開通祝賀会。開通当時、秋田～東京間は22時間あまりかかりました

大正14年６月、乗合自動車が初めて市内を走る。１区間の料金は７銭、初日の客は680人でした

藤倉水源地の工事風景。秋田市が水道工事に着手したのは明治36年。旭川上流の藤倉を水源として、千秋公園まで送水管を通す一大事業でした。総工費は約76万円。当時の市の予算は年３万円ですから、力の入れようが分かります。一般家庭への給水開始は明治40年10月

20世紀の主なできごと

- 1889（明治22）●秋田市制施行
- 秋田市役所を旧南秋田郡役所内（現在の北都銀行本店の地）に置き開庁
- 1901（明治34）●市内に初めて電灯ともる
- 1902（明治35）●国鉄秋田駅が開業
- 1905（明治38）●南秋田郡広山田村・旭川村・寺内村の各一部を秋田市に編入
- ●奥羽本線全線開通
- 1907（明治40）●秋田市上水道の給水開始
- ●市内に電話開通
- 1909（明治42）●二代目市庁舎が土手長町上丁（現在の千秋矢留町）に完成
- 1914（大正3）●黒川油田（金足黒川）が大噴油。一日当たり原油二千キロリットルを記録
- 1917（大正6）●日本銀行秋田支店開業
- ●雄物川改修工事始まる
- 1920（大正9）●市立商業学校開校
- 1922（大正11）●電車が初めて市内を走る
- 1924（大正13）●河辺郡牛島町を秋田市に編入
- 1925（大正14）●乗合自動車が初めて市内を走る
- 1926（大正15）●南秋田郡川尻村を秋田市に編入
- 1927（昭和2）●市立秋田診療所（のち市立秋田病院と統合）開設
- 1928（昭和3）●市の紋章を制定
- 1931（昭和6）●路面電車が秋田駅～大町二丁目間で運転開始
- 1932（昭和7）●下水道工事始まる
- ●ラジオ放送始まる